

民生委員児童委員だより

◇編集発行◇
泉区長命ヶ丘
四丁目19番4
民生児童委員
本間照雄

暮らし続けられる街

子どもは希望、高齢者は財産

敬老の日と敬老週間

◆今年の敬老の日は、九月二十一日(月・祝)です。従来は固定されていましたが、現在は、九月第三月曜日に変更となりました。この日は、国民の祝日に関する法律第二条に『多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を

幸齢者(高齢者)の知恵に学び暮らしに生かす

私たちの今の礎を築く

「礎」とは、物事の基礎となる大事な土台をつくることです。高齢者は、単に年齢が「高齢」ということだけではなく、今の私たちの暮らしの礎を築いてくれた人です。

◆厚生労働省が2025年七月に発表した令和六年簡易生命表によれば、平均余命は男性八一・〇一歳、女性八七・二三歳です。

◆この年齢の方が生まれたところの

祝つ。』とあります。

◆敬老の日の対象は「老人」(高齢者)ですが、何歳からという決まりはありません。

◆子どもや孫など若い世代が、高齢の家族やお世話になっている年長者を祝つ日と考えられています。一般的には「息子・娘の子(孫)が多いようですが、法律上の決まりはありません。

◆敬老の日は、若い世代が親世代に「ありがとう」の気持ちを伝え、家族の絆を再確認する日でもあります。普段は照れくさくて伝えら

八十一年前の様子を調べてみると太平洋戦争で戦況が悪化し、玉砕そして特攻作戦等で、いたづらに戦争を引き延ばし、広島・長崎への原爆投下で、ようやく終戦となった頃です。

◆また、この頃の乳児死亡率は、太平洋戦争末期の混乱および終戦直後の社会的崩壊に伴い統計調査が停止・中断していたため、国の公式な人口動態統計の数値が存在しません。しかし、この時期の乳児死亡率は、千人中百人と推計さ

れない感謝の言葉も、この日なら自然に伝えやすいかもしれません。

◆日本は世界でも有数の長寿国です。そのため、単に長寿をお祝いするだけではなく、人生経験や知恵を尊重し、世代を超えて支え合う社会の大切さを考える機会でもあります。

◆親(高齢者)がどのような時代を生きてきたのか等は、子ども世代は教科書的にしか知りません。この機会に、高齢者が生きてきた姿等を孫に聞かせてみては如何でしょうか。生きた歴史を学べます。

れています。即ち千人生まれて百人は、生後二年未満で亡くなっているのです。参考まで、一九四七(昭和二十二年)は、八十人がなくなっています。現在は、桁数が大きく下がり千人生まれて二人が亡くなっています。

◆現在、長寿をお祝いされる方々は、このような過酷な生育環境の中を生き抜いてきたのです。こうしてみると、自分だけの努力で今があるのでは無く、ご両親の無償の愛や近隣の方々など、様々な関

わりの中で育って今があることが分かります。

◆戦後は、お隣さん同士が支え合い、何も無い時代を何とか切り抜けてきました。

◆また、高度経済成長下では、モータリゼーションとして、日本経済の復興を支えました。昭和三十一年の経済白書で「もはや戦後ではない」と言わしめた立役者です。

高齢者の人生史に学ぶ

◆高齢者と呼ばれている方々に対して、ややもすると福祉予算を食い潰す存在とか、もう何も役割を持たない持てない人達と一括りにする傾向があります。

◆でも、こうして振り返って見ると、私たちの暮らしの繁栄は、この方々に築いてもらい、その上で成り立っていることが分かります。

◆敬老の日を迎えるに当たり、敬老の日や敬老週間に単に対象者の年齢で祝つということでは無く、彼らの努力に敬意を払い、感謝しつつ長寿を祝つては如何でしょうか。きっと、皆様の高齢者像に何かしらの変化をもたらしてくれるに違いないと思います。

世界的な異常気象

◆今日の日本や世界各地で頻発している記録的な大雨や大型台風は、単なる一時的な天候の偏りではなく、地球温暖化に伴う世界的な異常気象（気候変動）の大きな流れの一環として説明されています。

◆『温室効果と気温上昇による水蒸気量の増加』地球全体の平均気温が二℃上昇することにより、大気中に保持できる水蒸気量は約7%増加します。大気中の「湿気」が増加することで、いったん雲が発生すると、一度に降る雨の量が跳ね上がり、線状降水帯などの集中豪雨が発生しやすくなります。

◆『海水温の上昇と台風の巨大化』海水温の上昇は台風のエネルギー源（水蒸気）を増やします。発生する台風の「数」自体が増えるわけではありませんが、強い勢力まで発達する台風の割合が増え、接近時の勢力を維持しやすくなることで指摘されています。

◆『偏西風の蛇行』地球規模の偏西風が大きく蛇行することで、高気圧や低気圧が同じ場所にとどまりやすくなり、「特定の地域だけ長期間の集中豪雨に見舞われる」「別の地域では記録的な炎暑や日照りが続く」といった偏った極端な気象が連鎖します。

◆こうした説明は、天気予報などの際にも頻繁に解説されているところですが、現在の気象リスクは個別の地域問題にとどまらず、地球全体の大気・海洋循環の変化によってもたらされている「地球規模の課題」であると整理できます。

◆現在多発しているように見える地震の大部分は、地球内部の周期的なひずみ蓄積と解放という自然現象のサイクル（および巨大地震後の活動期）によるものと捉えられます。

◆東日本大震災を体験している私たちは、自然現象のサイクルの中で起きていることを改めて知らされました。しかし、時が過ぎると発生頻度が数百年単位だったりするので、それに対する備えがおろそかになりがちです。

◆しかし、『災害は忘れた頃にやってくる』は、過去の話となり、日本のあるところで大きな地震が発生しています。

◆日本の国土面積は地球上の陸地のわずか約0.25%（四百分の一程度）しかありませんが、世界で発生する比較的大規模な地震のおおよそ15%~20%が日本周辺で発

生しています（内閣府）。

◆世界で起きるM6.0以上の世界的な大地震の約18%~20%は日本周辺に集中しています。

◆地震の発生頻度を面積比で考えると、世界平均の約70~80倍という極めて高い密度で、日本周辺で地震が発生している計算になり、日本は世界屈指の『地震集中地帯』なのです。

◆豪雨、台風そして地震は避けられません。この為、私たちに出来ることは『備え』だけです（事前防災）。この機会に、食料の備蓄や防災用具の常備などを今一度考えてみては如何でしょうか。

◆左図は、何度もみていることだと思います。この際、今一度自分事としてみて下さい。そして実際に避難する時に、誰に手伝ってもら

うのかもじっくり考えてください。

掛かりつけ民生委員児童委員

私の願い

『転ばぬ先の杖になりたい』

本間昭雄（ほんま・てるお）
携帯電話番号

090 2603 6183

避難指示 必ず避難
警戒レベル4 までに

市町村からの避難情報発令前でも自らの判断で避難しましょう

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1
＜警戒レベル4までに必ず避難!＞			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難※2
2	災害状況変化	自らの避難行動を 確認する	レベル2 大雨・土砂災害・氾濫・高潮注意報 (気象庁)
1	今後災害状況 変化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確認できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。また、警戒レベル相当情報（氾濫発生情報、土砂災害警戒情報など）が発表されたとしても、必ずしも同時に同レベルの避難情報が発令されるものではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者や障害のある人、妊産婦、乳幼児連れの人など、避難に時間がかかる人は避難を開始するタイミングです。それ以外の人も、必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。



ハザードマップを確認し、自宅の災害リスクと、取るべき行動を確認しましょう。



「避難」とは「難」を「避」けることです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
屋内で安全を確保することも考えられます。
※屋内安全確保は「3つの条件」を満たす場合に検討する行動です。
詳細は裏面を確認しましょう。



ハザードマップポータルサイト

検索

避難に時間のかかる
高齢者や障害のある人、
妊産婦、乳幼児連れの人などは、
警戒レベル3高齢者等避難で
危険な場所から避難しましょう。

警戒レベル4避難指示までに
自らの判断で危険な場所から
全員避難しましょう。

※避難勧告は廃止されました。
(令和3年5月20日から)

警戒レベル5は、
すでに安全な避難ができず
命が危険な状況です。
警戒レベル5緊急安全確保の
発令を待ってはいけません。

内閣府(防災担当)・消防庁